

## 日本ユネスコ国内委員会自然科学小委員会政府間海洋学委員会 (IOC)

## 分科会の活動の概要 (平成28年6月～平成29年5月)

## 第49回政府間海洋学委員会 (IOC) 執行理事会

平成28年6月7～10日、ユネスコ本部にて、第49回IOC執行理事会が開催されました。我が国からは、植松 光夫 IOC分科会主査(団長)、道田 豊 IOC分科会調査委員、河野 健 IOC分科会調査委員、安藤 健太郎 IOC分科会調査委員、尾崎 友亮 気象庁地震火山部地震津波監視課国際地震津波情報調整官、佐藤 英章 文部科学省研究開発局海洋地球課深海地球探査企画官(当時)らが出席しました。

執行理事会では、2018-21年IOC事業予算案、IOCINDIOの再活性化、津波及びその他潮位関連災害地域警報システム、SDGs等の国際枠組みへのIOCの貢献の在り方、国家管轄権外区域の海洋生物多様性(BBNJ)、全球海洋観測システム(GOOS)、大洋水深総図(GEBCO)等について議論が行われました。



## 子ども霞が関見学デー「日本ユネスコ国内委員会トークショー」

平成28年7月28日(木)、子ども霞が関見学デーにおいて、日本ユネスコ国内委員会広報大使であるさかなクン、平野啓子さん、日本ユネスコ国内委員会IOC(ユネスコ政府間海洋学委員会)分科会調査委員である道田豊先生をお招きし、「日本ユネスコ国内委員会トークショー」を開催しました。

さかなクンと道田豊先生による「ESD×IOCトークショー」では、IOCの活動や魚を取り巻く海の環境について、実際の写真やイラストを見ながら、わかりやすい説明がありました。人間が海にごみを捨てると、魚がそれを食べて弱ってしまったり、死んでしまったりするという話を例えに、海・川・山などの自然にたくさん触れる機会のある夏休みに、自然環境の素晴らしさや守っていくことの大切さについて参加者たちが考える機会となりました。また、さかなクンがイラストを描きながら出題するお魚クイズでは、それぞれの魚の特徴を聞きながら、子どもたちが積極的に手を挙げて発言し、ESDについて楽しく学ぶことができました。



## 植松 光夫 日本ユネスコ国内委員会委員・IOC 分科会主査の「第 9 回海洋立国推

### 進功労者表彰」受賞について

平成 28 年 8 月 25 日、植松 光夫 日本ユネスコ国内委員会委員・IOC 分科会主査・東京大学大気海洋研究所教授が、「第 9 回海洋立国推進功労者表彰」を受賞されました。植松委員は、海洋環境保護の科学的側面に関する国際専門家会合の委員を務めるなど、海洋分野における日本の国際的地位の向上に貢献されました。



「海洋立国推進功労者表彰」は、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省及び環境省が内閣官房総合海洋政策本部事務局の協力を得て実施しています。平成 20 年より、科学技術、水産、海事、環境など海洋に関する幅広い分野における普及啓発、学術・研究、産業振興等において顕著な功績を挙げた個人・団体を表彰し、その功績をたたえ広く紹介することにより、国民の海洋に関する理解・関心を醸成する契機としています。なお、本表彰は海洋基本法に基づく海洋基本計画にも位置づけられています。

## 国立研究開発法人海洋研究開発機構(JAMSTEC)への IOC 活動推進に関する協

### 力依頼について

政府間海洋学委員会（IOC）分科会は、国立研究開発法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）に対し、今後も来年度も引き続き専門的な観点からの分析・検討を行っていただくため、IOC 活動推進への協力を依頼しました。

世界各地で海洋調査を実施している我が国にとっては、海洋調査が一定のルールのもと、円滑に実施されるよう各国に働きかけを行うこと及び技術移転について議論を行うことができる場として IOC は非常に重要です。IOC の活動分野は海洋観測、海洋情報、海洋環境、海洋法など非常に多岐にわたり、各分野での専門的な検討が求められることから、JAMSTEC において、施策検討の土台となる専門家、有識者による情報収集、意見交換を行っていただき、引き続き、IOC 分科会への支援・協力を頂くこととしています。

## 第 11 回 WESTPAC 政府間会合



平成 29 年 4 月 21 日から 4 月 23 日まで中国・青島で開催されたユネスコ政府間海洋学委員会（IOC）西太平洋地域小委員会（WESTPAC）の第 11 回政府間会合が開催されました。我が国からは、植松 光夫 IOC 分科会主査（団長）、道田 豊 IOC 分科会調査委員、安藤 健太郎 IOC 分科会調査委員、檜垣 将和気象庁地球環境・海洋部海洋気象課海洋気象情報室高潮モデル開発推進官らが出席しました。今回の政府間会合では既存プロジェクト等の活動報告、海洋ごみや海洋の貧酸素化の対策についての新しいワーキンググループの設置、能力開発事業等について活発な議論が行わ

れました。また、副議長ポストが2名から3名に増員となり、その後行われた役員選挙の結果、次期議長としてベトナムのVo Si TUAN氏（現副議長）が選出され、次期WESTPAC副議長として安藤健太郎IOC分科会調査委員、インドネシアのZainal Arfini氏、中国のFangli Qiao氏の3名が選出されました。日本が副議長に選出されるのは7年ぶりです。今回は2019年にフィリピンで開催されることが決まりました。また、当該政府間会合に先立ち、第10回IOC/WESTPAC科学会議が4月17日から20日に開催され、19カ国、800名を越す参加があり、小松輝久横浜商科大学教授がWESTPAC Outstanding Scientist Awardを受賞しました。

### 第13回有害藻類に関する政府間パネル(IPHAB)



平成29年5月3～5日、パリの政府間海洋学委員会（IOC）本部にて、有害藻類に関する政府間パネル（IPHAB）が開催されました。我が国からは東海大学の福代康夫客員教授と東京大学の岩滝光儀准教授が出席し、西太平洋地域の有害藻類プロジェクトであるWESTPAC-HABの代表として活動内容等の報告を行いました。IPHABでは、有害藻類に関する地域事業のほか、有害藻類に関するタスクチーム（シガテラ、海水淡水化、生物毒モニタリング、藻類の分類等）、GEOHABの後継事業であるGlobalHAB等に関する議論が行われました。

### 第24回国際海洋データ情報交換(IODE)IOC委員会

平成29年3月28～31日、マレーシア・クアラルンプール市において海洋データ情報国際交換（IODE）に関する第24回IOC委員会が開催され、我が国からIODEの共同議長である道田豊東京大学教授、馬場典夫海上保安庁海洋情報部海洋情報課長補佐、鈴木亨一般財団法人日本水路協会海洋情報研究センター研究部長が参加しました。

本会合には世界各国の海洋データ及び情報交換を担当する機関から、約70名が参加し、国連の持続可能な開発目標でIOCが責務を担っている目標14へのIODEとしての貢献、IODEにおける構造改革及び戦略計画、今後2カ年の活動計画が議論され、生物地理情報システム（OBIS）のOBIS-ENV-DATAパイロットプロジェクトの成果を踏まえ、新たに2カ年計画で、OBISイベントデータの科学的活用を目的としたパイロットプロジェクトを立ち上げることが採択され、地域の取組として西太平洋域における海洋データ情報交換に関する能力開発プロジェクト（ODINWESTPAC）の実施が採択され、ODINWESTPACのパイロットフェーズから引き続き中国がプロジェクトリーダーを務めることが決定されました。



<参考資料>

国際会議等一覧

| 会議等名称   | 開催日程<br>(開催地)                             | 主な内容  | 我が国出席者   |
|---|---|---|--|
| <p>全球海洋観測システム<br/>(GOOS)<br/>第5回運営委員会</p>   | <p>28. 6. 1-6. 3<br/>(ソポト・<br/>ポーランド)</p> | <p>GOOS 各パネルおよび GRA の活動を点検し、GOOS 戦略計画の策定について議論した。また、関連国際プログラム等との関係のあり方について検討し、とくに、GOOS も主要参加メンバーとなっている GEO Blue Planet との関係強化の必要性が確認された。平成 31 年 9 月に開催予定の OceanObs' 19 の大枠について意見交換した。</p>                               | <p>須賀利雄 IOC 分科会調査委員 (GOOS 運営委員会委員)</p>                             |
| <p>ICG/PTWS 運営委員会及び<br/>関連するタスクチーム会<br/>合、及び太平洋津波警報<br/>センター (PTWC) との調<br/>整会合</p> | <p>28. 6. 27-7. 2<br/>(ハワイ・<br/>米国)</p>   | <p>ICG/PTWS の運営に係る調整等が行われ、地域作業部会や各タスクチームの報告、国際津波情報センターが実施した研修の報告のほか、第 27 回 ICG/PTWS 会合の場所や期間を決定し、準備について検討が行われた。</p>   | <p>尾崎友亮 気象庁<br/>地震火山部地震津<br/>波監視課国際地震<br/>津波情報調整官</p>              |
| <p>第 29 回海底地形名<br/>小委員会 (SCUFN) 会合</p>  | <p>28. 9. 19-23<br/>(米国)</p>              | <p>国際水路機関 (IHO) と IOC が共同で設置する、海底地形名を標準化する委員会 (SCUFN) において、我が国が提案した 23 箇所の海底地形名が承認された。</p>  | <p>加藤 海上保安庁<br/>海洋情報部技術・<br/>国際課長、小原 海<br/>上保安庁海洋情報<br/>部地震調査官</p> |
| <p>第 24 回 GCOS 運営委員会</p>  | <p>28. 10. 4-6<br/>(グアヤキル・<br/>エクアドル)</p> | <p>今後 5~10 年程度の新しい実施計画 (Implementation Plan) が最終案のとおり承認された。気候のための大気観測パネル (AOPC) に気象庁の古林慎哉調査官、気候のための陸面観測パネル (TOPC) に国立極地研究所の榎本浩之教授の就任がそれぞれ承認された。<br/>※会合後の平成 29 年 1 月に、海洋観測パネル (OOPC) 委員に東京大学大気海洋研究所の岡 英太郎准教授が選出された。</p> | <p>須田一人 気象庁<br/>業務評価室長<br/>(GCOS 運営委員会<br/>委員)</p>                 |

|  |  |   |  |
|--|--|---|--|
| <p>第 33 回大洋水深総図 (GEBCO) 指導委員会、海洋地図技術小委員会 (TSCOM) 及び地域海洋地図作製小委員会 (SCRUM) 会合</p> | <p>28. 10. 10-14<br/>(チリ)</p>          | <p>TSCOM および SCRUM において、世界の海底地形図作製における技術事項の検討、地域別の海底地形図作成の進捗状況について議論されたほか、これらの上部委員会である指導委員会において、2030 年までに世界の海底地形を把握する取り組み (Seabed2030) や今後 2 カ年の事業計画等について議論が行われた。</p> | <p>森下 海上保安庁<br/>海洋情報部海洋防<br/>災調査室長</p>   |
| <p>ICG/PTWS 南シナ海津波情報センター設立タスクチーム会合</p>   | <p>28. 10. 24-26<br/>(北京・中国)</p>       | <p>南シナ海津波情報センター (SCSTAC) の観測システム、SCSTAC 業務のユーザーズガイド、及び翌 2 月に実施予定だった太平洋津波訓練 (PacWave17) における SCSTAC プロダクトの配信試験等について検討が行われた。</p>  | <p>上山哲幸 気象庁<br/>地震火山部地震津<br/>波監視課国際津波<br/>情報係長</p>                                 |
| <p>北東アジア地域海洋観測システム (NEAR-GOOS) 調整委員会 第 17 回会合</p>                              | <p>28. 12. 14-16<br/>(ウラジオストク・ロシア)</p> | <p>参加各国からデータベースの運用状況をはじめとした活動報告がなされるとともに、作業部会の活動計画の検討が行われた。また、現業海洋予測システムの発展のための作業部会が新たに設置され、そのキックオフとして各国の予測システムの現状レビューのためのワークショップが併せて開催された。</p>                       | <p>大野浩史 気象庁<br/>海洋気象課海洋環<br/>境解析センター調<br/>査官</p>                                   |
| <p>国際海洋炭素観測調整計画 (IOCCP) 第 12 回科学推進グループ会議</p>                                   | <p>29. 2. 6-7<br/>(マイアミ・米国)</p>        | <p>IOCCP 第 12 回科学推進グループ会議では、データ統合、観測マニュアルの改訂、観測連携の促進などに関する平成 28 年の IOCCP の活動の報告と今後の方針に関する議論を行った。</p>  | <p>石井雅男 気象庁<br/>気象研究所海洋・<br/>地球化学研究部室<br/>長 (IOCCP 共同議<br/>長)、青山道夫 福<br/>島大学教授</p> |
| <p>全球海洋観測システム (GOOS) 第 3 回執行委員会</p>  | <p>29. 2. 11<br/>(マイアミ・米国)</p>         | <p>GOOS 第 3 回執行委員会では、「GOOS 戦略 2017-2021」の案や、必須海洋変数 (EOVs) に関する諸問題などについて議論した。OceanObs' 19 の開催 (平成 31 年 9 月 16 日-20 日・ホノルル) に向けた準備状況について報告があった。</p>                     | <p>石井雅男 気象庁<br/>気象研究所海洋・<br/>地球化学研究部室<br/>長</p>                                    |

|  |  |  |  |
|--|--|--|--|
| 津波及びその他潮位関連<br>災害警戒・減災システム<br>作業部会 (TOWS-WG) 及び<br>関連のタスクチーム会合 | 29. 2. 21-24<br>(パリ・<br>フランス)            | 各津波警戒減災システム政府間調<br>整グループ (ICG) から最近の活動<br>状況に関する報告があったほか、<br>海事関係機関に向けた国際津波情<br>報の提供のあり方等各 ICG 共通の<br>関心事項に関する検討や、第 29 回<br>IOC 総会に向けた勧告案の検討が<br>行われた。                 | 尾崎友亮 気象庁<br>地震火山部地震津<br>波監視課国際地震<br>津波情報調整官                  |
| ICG/PTWS 南シナ海地域<br>作業部会第 6 会会合<br>(WG-SCS-VI)                  | 29. 3. 1-3<br>(上海・中国)                    | SCSTAC の試験運用や本運用等につ<br>いて検討が行われた。  | 尾崎友亮 気象庁<br>地震火山部地震津<br>波監視課国際地震<br>津波情報調整官                  |
| ICG/PTWS 第 27 回会合、同<br>運営委員会及び国際津波<br>ワークショップ                  | 29. 3. 26-3. 31<br>(タヒチ・<br>仏領ポリネシ<br>ア) | 会期間の活動報告に加え、北西太<br>平洋津波情報センター (NWPTAC)<br>の新プロダクトや責任領域拡張の<br>承認、SCSTAC の運用、次回の太平<br>洋津波訓練の時期等について検<br>討・合意したほか、議長・副議長<br>の選出が行われた。副議長の 1 人<br>には、気象庁から原田智史氏が選<br>出された。 | 原田智史 気象庁<br>地震火山部付、<br>丸本大介 気象庁<br>地震火山部地震津<br>波監視課技術専門<br>官 |

#### 国内会議一覧

| 会議等名称                 | 開催日程<br>(開催地)     | 主な内容  | 我が国出席者   |
|-----------------------|-------------------|---|--|
| 第 46 回海洋資料交換国内<br>連絡会 | 29. 2. 16<br>(東京) | 海洋データ・情報管理分野におけ<br>る国内事例の紹介や国際海洋デー<br>タ情報交換 (IODE) 関連会合報告<br>等の国際動向について、意見交換<br>を行った。 | 文部科学省、国土交<br>通省、気象庁、環<br>境省、東京大学、海<br>洋研究開発機構、<br>国立環境研究所、水<br>産研究教育機構、産<br>業技術総合研究所、<br>国立極地研究所等<br>14 機関 |

|                    |                   |  |   |
|--------------------|-------------------|--|---|
| 第 17 回 JCOMM 国内連絡会 | 29. 3. 7<br>(気象庁) | JCOMM 関連の国際的動向について報告が行われた。また、アルゴ、船舶、ブイ等海洋の現場観測の実施・観測結果の通報状況等の情報交換を行った。 | 文部科学省、水産庁、気象庁、海上保安庁、防衛省、海洋研究開発機構、水産研究・教育機構及び東京大学関係官 |
|--------------------|-------------------|--|---|

### IOC 協力推進委員会、分野別専門部会

| 会議等名称                | 開催日程<br>(開催地)                | 主な内容   |
|----------------------|------------------------------|--|
| 第 7 回海洋情報・データ国内専門部会  | 29. 3. 9<br>(JAMSTEC 東京事務所)  | 第 6 回海洋情報・データ国内専門部会以降の進捗状況について情報交換を行うとともに、第 24 回 IODE 会合への対応についても意見交換を実施した。    |
| 第 8 回 WESTPAC 国内専門部会 | 29. 3. 23<br>(JAMSTEC 東京事務所) | 第 7 回 WESTPAC 国内専門部会以降の進捗状況について情報交換を行うとともに、第 11 回 WESTPAC 総会への対応について意見交換を実施した。 |
| 第 7 回海洋観測・気候変動国内専門部会 | 29. 5. 16<br>(JAMSTEC 東京事務所) | 第 6 回海洋観測・気候変動国内専門部会以降の進捗状況について情報交換を行うとともに、今後の活動についても意見交換を行った。                 |
| 第 10 回 IOC 協力推進委員会   | 29. 5. 26<br>(JAMSTEC 東京事務所) | 第 9 回 IOC 協力推進委員会以降の進捗状況について情報交換を行うとともに、第 29 回 IOC 総会への対応について意見交換を実施した。        |